

『真実に生きてこそ！』 ヤコブの手紙3章2～12節 2018.8.19 聖日礼拝説教より

『ですから、あなたがたは偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさい。私たちはからだの一部分として互いにそれぞれのものだからです。』
エペソ人への手紙4章25節

❶ **恐ろしいほどの言葉の力(ヤコブ 3:2～12)**…「言葉」を7つのものに喩え、3種類に分ける。①馬の「くつわ」と船の「舵」(人生の方向に影響！人は言葉で絶望から希望へと舵を切る。逆も！)。②火、毒(人にダメージを与える！人は一言で傷つき、躓く…)。③泉、木、水(心の奥底から外へ出るもの)。甘い水と苦い水を出す泉のように、現実には有り得ないことが起きる…「讚美と呪いが同じ口から出てくる(3:10)」と。全ての人は神のかたちに似せて創られ、神の目に尊く、価値があり、愛されている。今、神の栄光を表していなくても、その「人」を悪く言うのは神への冒瀆！人生の究極の選択は、自分を喜ばせるのか神を喜ばせるのかだが、人は「自分」を通そうとして分裂する！人を愛し赦し優しくできる霊的な自分と、罪の性質丸出し！わがままで、ガンコで、人の言うことを聞かない肉的な自分がある。「偽りを言わない」とは、誰に対しても悪口や陰口を言わないことであり、その隣人の名誉を守り、祝福へ導くこと！

❷ **人が口にすべき言葉(エペソ 4:29)**…『人の徳を養うのに役立つ言葉』を語るとは、「その人を立てる(長所を認め、敬意を払い、考えを尊重する…)」こと。同じことを言うにも批判的ではなく、前向き、肯定表現で言いたい。『役立つ』とは、神に対しては「讚美」、人に対しては「祝福」。クリスチャンにはどんな時にも、まず神への感謝・讚美・喜びがある！それをもって、どんな人にも元気を与え、恵みと救いを祈れる！ペテロは、1度ならず3度も嘘をつく「あの人は誓っても知らない」！憐れな姿で十字架へ引きずられていくイエスを信じる弟子としての自分を恥じたか？しかしイエスはペテロの嘘を初めから知っていた(ルカ 22:31～62)。そのうえでペテロを愛し、神の真実を伝える者として選ばれた。自分の弱さが逆に、キリストの変わらない、真実な愛を証言する物語となった！そこまで知られているなら、もう自分を良く見せようと飾ることはない！自分の恥も失敗も、「絶対に捨てない」という変わらない神の真実を証言する！

★神は私たちを何度でもやり直せる人生へ招かれる！神と人の前に、誤魔化す必要なく、自分らしく堂々と、隠し事なく、正直に、素直に生きる真実な生涯へ導いてくださる！この真実な神の愛、キリストの真理を語り合い分かち合う交わりを、この騙し合うしかない世界に広げる者になりたい！